

1章 調査の目的と概要

1-1. 調査目的

本調査は、建築研究所重点研究課題「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発」の一環として実施する基礎調査である。住宅・住環境の安全・安心に関わる生活者のニーズ・意識を把握することを目的に全国規模のアンケート調査を実施し、住宅・住環境への安全度や安心度、満足度、意見・態度等について統計的分析を行う。

1-2. 調査概要

1-2-1. 調査概要

調査はWeb上で回答するインターネット調査であり、調査会社を通じて実施した。

対象者は、日本全国に居住する25～54才の調査モニター登録者であり、性別、年齢層（5才階級、6属性）、居住地域（首都圏+近畿圏・その他、2属性）が各々均等になるよう抽出し、計2,508人を割り付けた（割付は発信時だけに実施）。

- ◆ 性別（2属性）
 - ◆ 年齢層（5才階級、6属性）
 - ◆ 地域（首都圏+近畿・その他、2属性）
- } 24属性
(100人強 / 属性)

今回、インターネット調査という手法を選択したのは、このような全国規模の調査を一定の品質で行う必要があったからである。インターネット調査は、特定地域に偏ることなく全国から対象者を均等にサンプリングすること、年齢や性別等が均等になるよう調整することなどにとくに優れており、コストパフォーマンスや納期の面でも、質問紙調査など他の手法の追従を許さない。

なお、居住地域を「首都圏+近畿」と「その他」を均等割付にした理由は、以下のとおりである。

- ◆ 調査モニターの居住地分布は「首都圏+近畿」で60%。実態*より都市居住者割合が高いので、若干是正をしたい。

*総務省統計局の人口推計データでは、「首都圏+近畿」と「その他」の人口比率は46:53。

- ◆ 居住地域だけを考えると、北海道、東北、関東等の地域別に、人口動態に合わせた割付をする方法が考えられる。しかし、性年代の割付もあるので、地域別割付にすると各セルの人数が非常に少なくなり現実的でない。

また、年齢層を20代後半～50代前半とした理由は、主に以下のとおりである。

- ◆ テーマが住宅・住環境なので、回答者にはこのテーマへの関心、および生活経験がある程度ある方がよい。この意味で、25才未満を調査対象者から外した。
- ◆ 50代後半以降を外したのは、調査モニター登録者自体が少ないため。

調査時期は2007年3月9日(金)～3月13日(火)、有効回答は2,508人である。

表1-1 回答者の内訳

	年齢	首都圏	近畿圏	その他	合計
男性	25～29	70	35	104	209人
	30～34	71	36	102	209人
	35～39	65	37	107	209人
	40～44	82	37	90	209人
	45～49	69	30	110	209人
	50～54	70	34	105	209人
女性	25～29	57	31	121	209人
	30～34	62	31	116	209人
	35～39	66	38	105	209人
	40～44	68	27	114	209人
	45～49	53	44	112	209人
	50～54	54	41	114	209人
合計		787	421	1,300	2,508人
		31%	17%	52%	100%

*首都圏：東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県

*近畿圏：大阪府・京都府・兵庫県・和歌山県・奈良県・滋賀県

参考までに、調査会社による配布回収の手順の概要を下記に示す。実際には調査会社ごとに、また提供されるサービス内容ごとに若干異なるが、今回はほぼ一般的な手順といえる。

- ◆ 「アンケート発信リスト」の作成
 - *全調査モニターの中から条件にあった人を抽出、さらにそのなかから回収目標数を満たすために必要と思われる数（性別・年齢別などの回収実績に基づいて算出）に絞る。
- ◆ リストに基づきアンケート依頼をメールで送付
 - *依頼した人がログインする Web サイトにのみ、当該アンケートへの入口ボタンが表示されるよう設定。
- ◆ 回収状況のチェック、修正
 - *メール発信の翌日から回収状況をチェック、予想より少なかった場合は、アンケート回答を促す催促メールを発信したり、「アンケート発信リスト」を追加で増やしたりする。
- ◆ アンケートの打ち切り（終了）
 - *有効回答率を想定し、納品予定の回収目標数にプラスアルファをした数を超えた時点でアンケートを打ち切る（属性ごとにチェック）。本調査の場合、性別・年齢層の各セルごとに220～230人程度、計2702人を回収した。
- ◆ 対象者外のカット
 - *調査モニターの登録間違いや引越し等も考えられるので、データをチェックし、対象者外の人がいればカットする。
- ◆ 納品データの抽出
 - *上記有効回収票から回収目標数の分だけ無作為に回答者を抽出し、納品データとする。本調査の場合、性別・年齢層ごとに209人を無作為抽出し、居住地域については成り行き（このような扱いを「発信時のみ割付」と称する）として、計2508名分の納品データを得ている。

なお、今回、発信したアンケート数を表1-2に示す。

表1-2 アンケート発信数

	年齢	首都圏+近畿圏	その他	合計
男性	25～29	600	600	1,200 人
	30～34	415	415	830 人
	35～39	415	415	830 人
	40～44	363	363	726 人
	45～49	363	363	726 人
	50～54	363	363	726 人
女性	25～29	525	525	1,050 人
	30～34	415	415	830 人
	35～39	415	415	830 人
	40～44	363	363	726 人
	45～49	363	363	726 人
	50～54	363	363	726 人
合計		4,963	4,963	9,926 人

単純に、納品データ数2508を発信数9,926で除すと25.3%、あるいはアンケート打ち切り時点の回収票数2702を発信数で除すと27.2%となる。しかし、一般的に、インターネット調査において、これらの数値は「回収率」としては報告されないようである。その理由は下記のようなものである。

- ・調査終了まで配信に気づかない人が相当数の未回収票となる。回収率は調査依頼のアタック数を分母とすべきだが、これらの未回収票は「アタックされた」とはいえない。従って、単純に「配信数＝アタック数」としては扱えない。
- ・回答しようとしたが調査が終了されていた、という人が相当数の未回収票となる。これらの未回収票は、締め切り前であれば有効回収票となっていたはずであり、曜日・時間帯などの点で十分に余裕のある調査実施期間を設けていれば、有効回収票との差異は小さいと考えられる。従って、これらを未回収票として扱って、回収バイアスの指標となる回収率を計算することには問題がある。

1-2-2. 調査項目

過去の調査、および「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発に関する検討委員会」における各分科会の意向をふまえて調査項目を設計した。

主な項目を次ページ（表1-3）に示す。

表 1-3 主な調査項目

		分野共通の項目	安全安心に直接関わる項目
フェイス項目	個人属性	(年齢)、(性別)、(職業)、世帯属性、家族人数、子育て経験…	-
	生活実態	居住年数、居住地タイプ(都会・田舎・郊外)、地域性、住居形態、住居構造、築年数…	事故や災害にあった経験 (交通事故、転倒転落、路上犯罪、車上狙い等、空き巣強盗、救急医療、地震、放火、火災、風水害、健康被害、近隣トラブル、夜道…)
認識・評価	個別評価	[住居] 収納、高齢者配慮、日当たり採光、騒音、眺め、視線、デザイン、強度…/生活感がある、便利である、清潔感がある… [地域] 騒音振動、自然、人の良さ、交通の便、子育て、救急医療、支援制度…/快適である、静かである、便利である…	事件事故の多さの認識 (交通事故、転倒転落事故、路上犯罪、火災…※) 不安度 (交通事故、転倒転落事故、路上犯罪、火災…※) 安全-危険度 (交通事故、転倒転落事故、路上犯罪、火災…※) 安全-危険に関する自由記述等 (場所×誰にとって×何が危険安全か等) (バリアフリー、公園の遊具について) ※)一部項目で、子ども・高齢者ではどうかを再質問
	総合評価	総合不満度、総合魅力度/好ましい、住みよい、愛着がある	総合不安度、不安の理由/安全である、安心できる
意見・態度・行動	関心意見	総合関心度、地域活動参加意向(清掃活動、地域行事、自治会会合…)	防災防犯に関する地域活動参加意向(訓練、住民パトロール、地域安全マップづくり…) 交通安全や防犯への取組みへの意見(ハンブなど、住民パトロール、オートロック、防犯カメラ、Web上での地域安全情報提供…) 犯罪対策に関する意見(犯罪不安は過剰反応か、防犯より社会構造改善…)
	知識行動	地域活動参加経験(清掃活動、地域行事、自治会会合…)	知識(最寄の交番、災害時の避難場所等…) 防災防犯に関わる地域活動参加経験(訓練、住民パトロール、地域安全マップづくり…) 異常時の対応の想定(助けに応じてすぐ対応、異常時には助けを求める) 対策(家族・近所話し合い、耐震補強、インターホン、保険、在宅施錠、不在時の声かけ、備蓄物資…) 対策内容の自由記述(転倒転落、防犯防災等)

* 「不安度」「安全-危険度」「総合不満度」などの「度」は「度合い」の意味、「大いに感じる」～「まったく感じない」など、順序尺度の設定間に使用した。

* 「事件事故の多さの認識 (Q13)」「不安度 (Q7)」「安全-危険度 (Q9)」の3 カテゴリーでは、交通事故や転倒転落等についてのみ、子どもや高齢者ではどうかを別途聞いている。

* 「総合不満度 (Q3)」「総合魅力度 (Q4)」「総合不安度 (Q6)」「総合関心度 (Q5)」は、住居と居住地域の各々についてそれぞれ同じ4段階で聞いている。

* 「安全である」「安心できる」は、「便利である」「快適である」「くつろげる」「好ましい」「愛着がある」等と同様に、住居と居住地域の各々についてそれぞれ同じ両側5段階で聞いている。(Q1, Q2)

特筆すべきなのは、同じ項目（たとえば「交通事故」）に関して、以下の4つの認識・評価、経験を聞けるよう設計した点である（表 1-3 の右列「安全安心に直接関わる項目」における「フェイス項目」と「認識・評価」、太字部分が該当）。

- ◆ 自分や家族がそのような事態になることへの不安の度合い「不安度 (Q7)」
- ◆ 居住地域や住居のそのような事態に対する安全性の評価「安全-危険度 (Q9)」
- ◆ 最近、自宅周辺でそのような事態が多いと認識しているか「事件事故の多さの認識 (Q13)」
- ◆ 今までに自分や家族がそのような事態になったことがあるか否か「事故や災害にあった経験 (Q14)」

ただし、項目によっては、そのように認識または評価することはありえないものもあり、同じワーディングが使えず、あえて別の設問で聞くようにしたものや、

その項目を省略したものもある。

たとえば、表 1-4 【例2】の「急病やケガ、夜間の診療に対応する病院・体制」がこれに該当する。具体的には次のような対応を行った。

- ◆ 「～についての不安」であれば聞けるが、「お住まいの地域は、～に対して、安全-危険」では聞けない。そこで、安全-危険度ではなく「整っているか否か」の客観評価を別の設問 (Q1) で聞くこととした。
- ◆ 事件事故ではないので「(最近、自宅周辺で) 多い～少ない」は評価できない。そこで、「事件事故の多さの認識」は省いた。
- ◆ 経験は「急病やケガ、夜間などにすぐに診療が受けられなかった」という事態の経験の有無を聞く、というようにワーディングを適宜変更した。

表 1-4 「安全安心に直接関わる項目」の設計意図

	【例1】交通事故	【例2】急病やケガ、夜間（の診療に対応する病院・体制）	
<u>不安度</u> 4段階	自分や家族が、お住まいの地域で～にあうことへの不安 [大いに感じる—まったく感じない]	～についての不安 [大いに感じる—まったく感じない]	… 20項目(Q7)
<u>安全-危険度</u> 5段階	お住まいの地域は、～に対して、[安全-危険(Q9)]	～が整っている [そう思う—そう思わない(Q1)]	… 17項目(Q9) 3項目(Q1)
<u>事件事故の多さの認識</u> 4段階	～ [(最近、自宅周辺で) 多い～少ない]		… 7項目(Q13)
<u>事故災害の経験</u> 名義尺度	～で大けがをした [自分だけ、家族だけ、自分も家族も...]	～などにすぐに診療が受けられなかった [自分だけ、家族だけ、自分も家族も...]	… 17項目(Q14)

このように設計したのは、表 1-5 に示した 20 項目である（日常生活事故、防犯、防災など、従来は異なる調査であつかわれるような項目を横並びで検討できるようにしているのも、本調査の特徴である）。

なお、「不安度」と「安全-危険度」のワーディング等はほぼ合わせたが、*印のセルのみ、次のように敢えて変えている。

- ◆ Q1 は安全-危険度評価ではなく、客観評価。
 - ✓ 救急医療に対応する病院・体制が整っている（両側 5 段階）
 - ✓ 近所づきあいが良好な地域である（両側 5 段階）
 - ✓ いざというときに頼りになる人が多い地域だと思う（両側 5 段階）
- ◆ Q9' は若干読み替えた項目。
 - ✓ 「地震で自宅損壊」は「地震に対する“地域”の安全-危険度」

表 1-5 「不安度」「安全-危険度」等の対象項目と該当する問

20 項目	不安度 (4 段階)	安全-危険度 (5 段階)	事件事故の多さ (4 段階)	事故災害の経験 (名義尺度)
交通事故	Q7	Q9	Q13	Q14
歩行時転倒転落	Q7	Q9	Q13	Q14
自宅内転倒転落	Q7	Q9		Q14
路上犯罪	Q7	Q9	Q13	Q14
車上ねらい等	Q7	Q9	Q13	Q14
空き巣強盗	Q7	Q9	Q13	Q14
破損落書き	Q7	Q9		Q14
救急医療	Q7	Q1*		Q14
地震で自宅損壊	Q7	Q9'*		Q14
地震で被災	Q7	Q9'*		Q14
不審火や放火	Q7	Q9	Q13	Q14
出火して火災	Q7	Q9		Q14
火災で被災	Q7	Q9	Q13'	Q14
風水害	Q7	Q9		Q14
地盤災害	Q7	Q9		Q14
災害避難	Q7	Q9		
健康被害	Q7	Q9		Q14
近隣トラブル	Q7	Q1*		Q14
近隣扶助	Q7	Q1*		
夜道	Q7	Q9		

1-2-3. 調査票

作成した調査票は、巻末の付録2（付属のCDにも収録）に示すとおりである。図1-1は、その調査画面の一例である。

なお、Webアンケートの特性を活かし、設問の分岐や選択肢のランダム表示を行った箇所がある。

設問の分岐は、次の2箇所である。

☆同居している家族に関する設問4問（下記）は、単身者319人に対しては非表示とした。

◆ Q18 防災防犯対策に関する設問

- ・「防災に関する家族の話し合い」の経験
- ・「自宅防犯に関する家族の話し合い」の経験
- ・「大地震時の家族連絡方法」を決めているか
- ・「大地震時の家族で落ち合う場所」を決めているか

☆ある選択肢を選んだ人にだけ自由記述等をしてもらった（子設問。以下は主なもの）。

- ◆ Q6-SQ1 地域に対する不安がある人限定で、その内容（自由記述）
- ◆ Q6-SQ2 住居に対する不安がある人限定で、その内容（自由記述）
- ◆ Q16-SQ1 公園の遊具が壊れているのをみたことがある人限定で「管理事務所などに連絡したか」（Yes-Noと自由記述）
- ◆ Q28-SQ1 集合住宅在住者限定で、オートロックシステムと防犯カメラの状況

選択肢のランダム表示は、以下の設問で、順序効果を防ぐために適宜実施した。

- ◆ Q1 地域の評価（一部順序を固定）
- ◆ Q2 住居の評価（一部順序を固定）
- ◆ Q19 日ごろの安全対策（一部順序を固定）

Q7. あなたは、現在の生活で、次のような不安や心配を感じますか。あなた自身が感じる不安感や心配の程度をお答えください。（それぞれ1つだけ）

横方向に回答してください →		大いに不安を感じる	やや不安を感じる	あまり不安を感じない	まったく不安を感じない
自分や家族が、お住まいの地域で交通事故にあうことへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分や家族が、お住まいの地域を歩行時に転倒・転落などの事故でケガをすることへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分や家族が、自宅内で転倒・転落などの事故にあつてケガをすることへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分や家族が、お住まいの地域で路上犯罪（ひったくり・恐喝・ちかんなど）にあうことへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自家用車やオートバイを狙った犯罪（自動車盗、車上ねらいなど）にあうことへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自宅が空き巣・強盗などの被害にあうことへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自宅が破損や落書き、いたずらなどの被害にあうことへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
急病やケガ、夜間の診療に対応する病院・体制についての不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
大きな地震で、自宅が壊れることへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
大きな地震で、自分や家族が被害をうけることへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
横方向に回答してください →		大いに不安を感じる	やや不安を感じる	あまり不安を感じない	まったく不安を感じない
自宅や自宅周辺でおこる不審火や放火についての不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自宅から出火して火災になることへの不安	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自宅や自宅周辺の火災で自分や家族が被害をうけることへ	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

図1-1 調査画面の例